令和３年度　第３回

杉並区区政モニターアンケート
「障害者差別の解消と共生社会」について

集計結果報告書

令和３年12月実施

杉並区総務部区政相談課

「障害者差別の解消と共生社会」について

調査の概要

1　調査の目的

杉並区では、障害のある人もない人も、誰もが社会の一員として互いに人格と個性を尊重しあいながら共に生きる社会の実現を目指し、障害理解を互いに深めるための普及啓発策のほか、障害を理由とする差別の解消に向けて様々な取組を行っています。これらの取組を一層進めるに当たり、障害に関する意識について、区政モニターの皆さまにアンケート調査を実施しました。

2　調査期間　令和3年12月1日～12月14日

3　対象者（区政ﾓﾆﾀｰ）　196 人

4　回答者数　166 人(＝n)　回答率 84.7%

5　回答者構成

単位：人

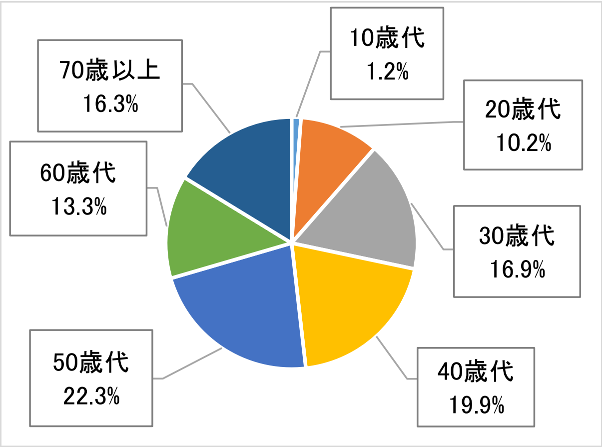
〈年代別構成〉	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
人数	2	17	28	33	37	22	27	166
割合	1.2%	10.2%	16.9%	19.9%	22.3%	13.3%	16.3%	100%

単位：人

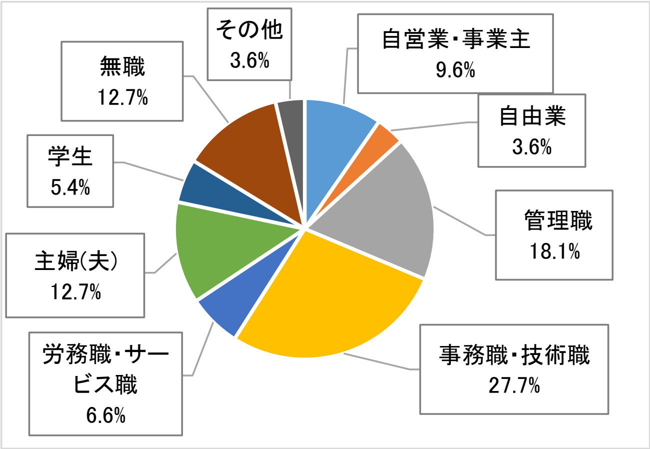
〈職業別構成〉	自営業・事業主	自由業	管理職	事務職・技術職	労務職・サービス職	主婦（夫）	学生	無職	その他
人数	16	6	30	46	11	21	9	21	6
割合	9. 6%	3. 6%	18.1%	27.7%	6.6%	12.7%	5.4%	12.7%	3.6%

合計	166	100%

〈年代別構成〉



〈職業別構成〉



6　集計結果の表示について

（1）　各項の初めにあるnは、回答者数を表しています。
（2）　百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

◆基本事項についてお聞きします。

問1　あなたの年齢をお答えください。
問2　あなたのご職業は、主に次のどれにあたりますか。

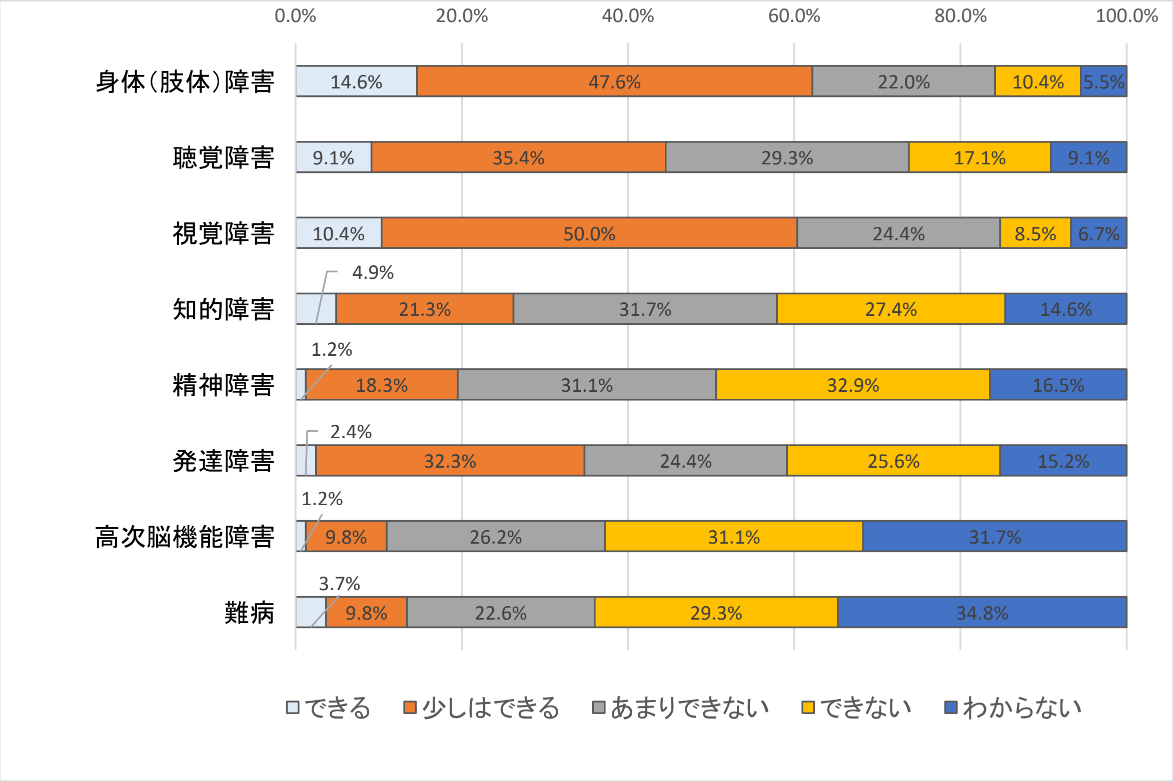
※問1～問2の結果については、上記『　調査の概要　「5　回答者構成」』のとおり

◆障害者理解と差別解消について

問3　あなたは、以下の障害特性を理解し、障害に応じた対応ができますか。以下の①～⑧について、それぞれ当てはまるもの１つに〇をつけてください。

n=166

	できる	少しはできる	あまりできない	できない	わからない
身体（肢体）障害	24	78	38	17	9
	14.6%	47.6%	23.2%	10.4%	5.5%
聴覚障害	15	59	49	28	15
	9.1%	36.0%	29.9%	17.1%	9.1%
視覚障害	17	82	42	14	11
	10.4%	50.0%	25.6%	8.5%	6.7%
知的障害	8	35	54	45	24
	4.9%	21.3%	32.9%	27.4%	14.6%
精神障害	2	30	52	55	27
	1.2%	18.3%	31.7%	33.5%	16.5%
発達障害	4	53	42	42	25
	2.4%	32.3%	25.6%	25.6%	15.2%
高次脳機能障害	2	16	45	51	52
	1.2%	9.8%	27.4%	31.1%	31.7%
難病	6	16	39	48	57
	3.7%	9.8%	23.8%	29.3%	34.8%

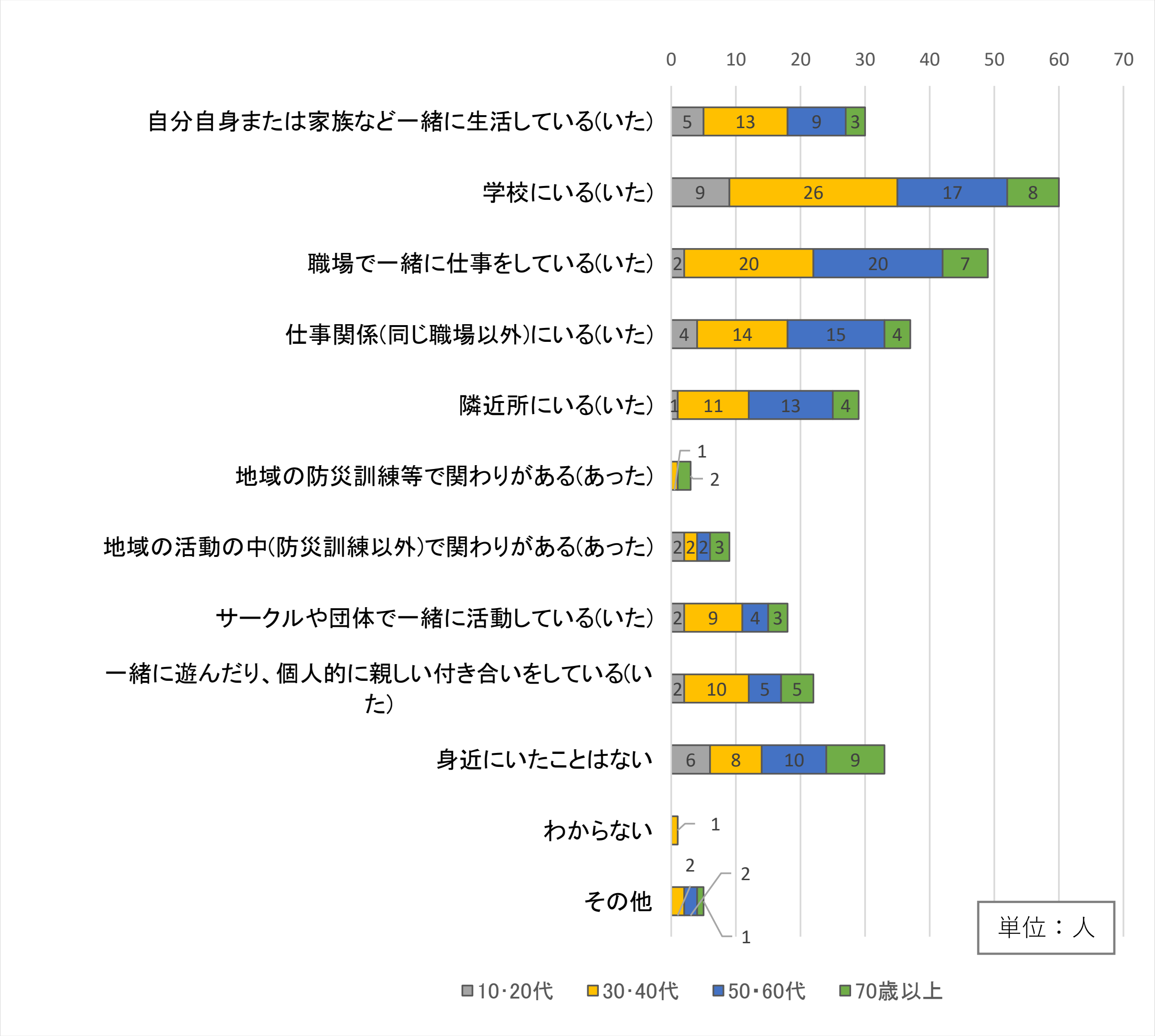


問4　仕事上または日常生活などにおいて、あなたは身近に障害のある人がいますか。または、これまでにいたことがありましたか。（○はいくつでも）

n=166

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
自分自身または家族など一緒に生活している(いた)	30	18.1%	5	13	9	3
学校にいる(いた)	60	36.1%	9	26	17	8
職場で一緒に仕事をしている(いた)	49	29.5%	2	20	20	7
仕事関係(同じ職場以外)にいる(いた)	37	22.3%	4	14	15	4
隣近所にいる(いた)	29	17.5%	1	11	13	4
地域の防災訓練等で関わりがある(あった)	3	1.8%	0	1	0	2
地域の活動の中(防災訓練以外)で関わりがある(あった)	9	5.4%	2	2	2	3
サークルや団体で一緒に活動している(いた)	18	10.8%	2	9	4	3
一緒に遊んだり、個人的に親しい付き合いをしている(いた)	22	13.3%	2	10	5	5
身近にいたことはない	33	19.9%	6	8	10	9
わからない	1	0.6%	0	1	0	0
その他	5	3.0%	0	2	2	1

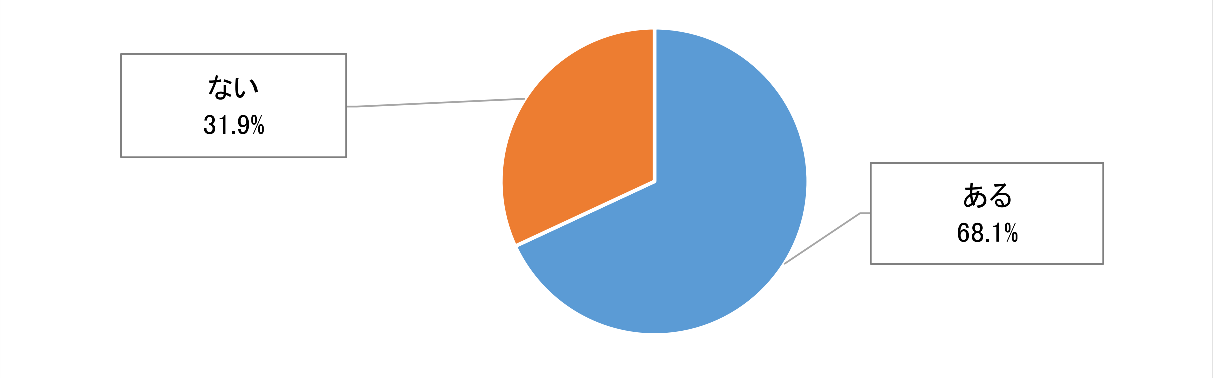
その他・・・
・親戚
・パラリンピックボランティア参加・家内の母が障害があるが同居はしていません。
・妹が精神障害者の自立支援をする福祉作業所で働いているのでたびたび利用者の方々の話を聞く。
・地方に居住していた義姉



問5　あなたは障害のある人の手助けをしたことがありますか。(〇は1つ)

n=166

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
ある	113	68.1%	8	44	43	18
ない	53	31.9%	11	17	16	9
合　計	166	100%	19	61	59	27



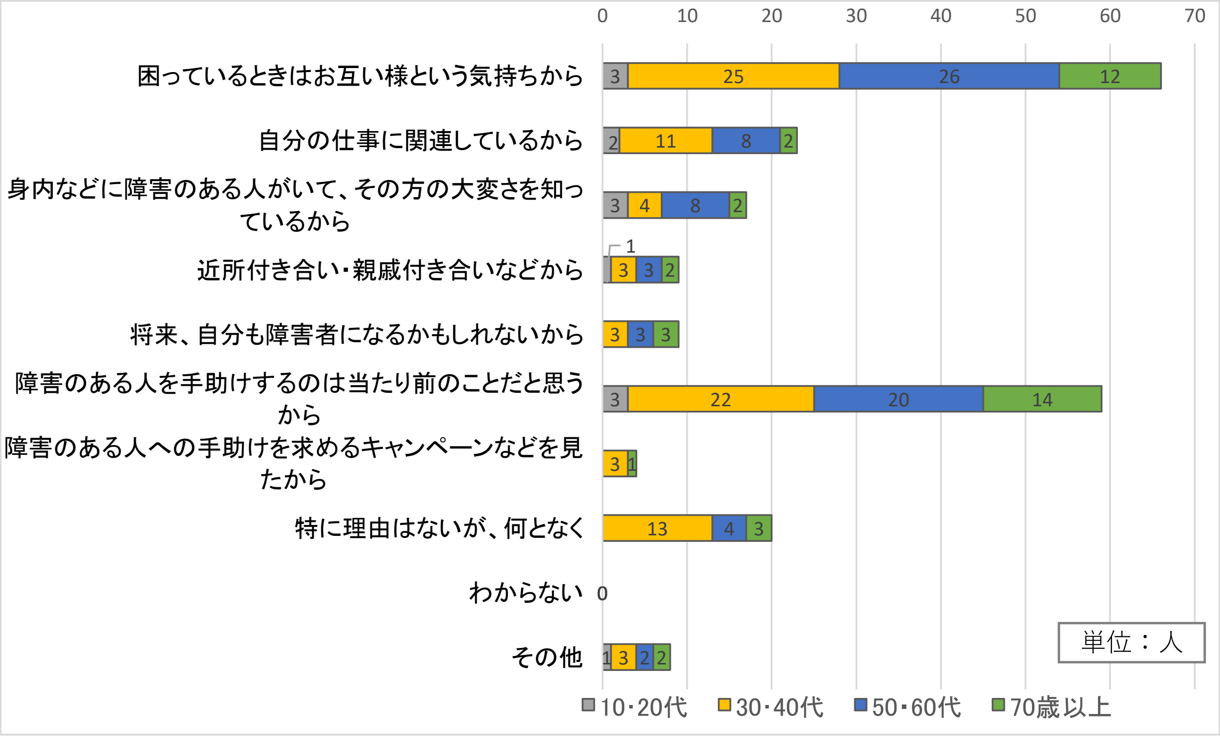
（問５で「① ある」と回答した方）

問６　あなたはどのような気持ちから障害のある人の手助けをしましたか。（気持ちに近いものを選んでください。〇はいくつでも）

n=113

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
困っているときはお互い様という気持ちから	66	58.4%	3	25	26	12
自分の仕事に関連しているから	23	20.4%	2	11	8	2
身内などに障害のある人がいて、その方の大変さを知っているから	17	15.0%	3	4	8	2
近所付き合い･親戚付き合いなどから	9	8.0%	1	3	3	2
将来、自分も障害者になるかもしれないから	9	8.0%	0	3	3	3
障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから	59	52.2%	3	22	20	14
障害のある人への手助けを求めるキャンペーンなどを見たから	4	3.5%	0	3	0	1
特に理由はないが、何となく	20	17.7%	0	13	4	3
わからない	0	0.0%	0	0	0	0
その他	8	7.1%	1	3	2	2

その他･･･
･学生の時、学校で聴覚障害のクラスメイトの支援をする係だった。
･自分でも役に立つのであれば力を貸したいという気持ちから。
･わが家にも身体と知的に障害の息子がおり、一歩社会に出ると歩きにくかったり、目線を感じることも多くあります。「すみません」と言いながら小さくなって親子で電車に乗ると「すみませんなんて言う必要ないわよ、大丈夫よ」と声かけしてくださるおばさんがいらっしゃるとホッとしました。そのような経験から、まちで視覚など障害で困っている方がいれば大丈夫か見守ったり、必要そうだったらお声かけしたりした。
･障害があるなしにかかわらず、困った人がいればできることはしてあげることは当たり前だと思う。自分も人の手を借りることは多分にあり得るから。
･出来ることをやるのは当然だから。
･「手助け」という言い方自体、あまり理解しづらい。日頃から聴覚障害のある方とかかわっており、手話通訳等行っておりますが、私自身助けられることもたくさんありますし、一方的にあえて手助けと思ってかかわったことはありません。
･道で視覚障害者の方に銀行まで連れて行ってくださいと言われました。相手の手を持ってしまいましたが、後で杖の反対の手で腕をつかんでもらえばよかったと反省しました。

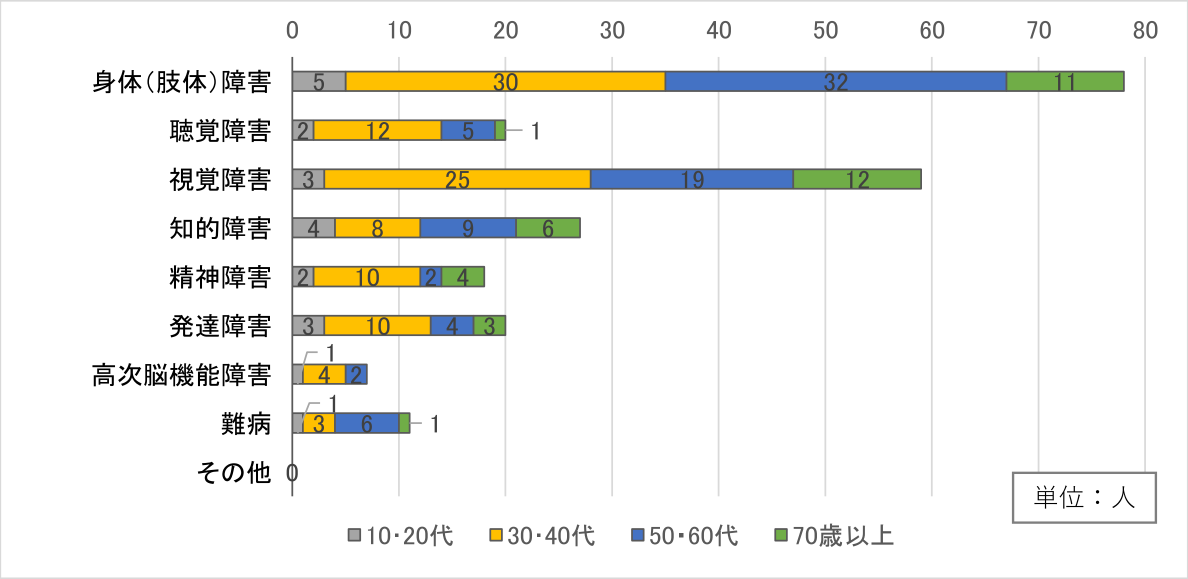


（問5で「① ある」と回答した方）

問7　手助けをした方は、どんな障害の方ですか。（〇はいくつでも）

n=113

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
身体（肢体）障害	78	69.0%	5	30	32	11
聴覚障害	20	17.7%	2	12	5	1
視覚障害	59	52.2%	3	25	19	12
知的障害	27	23.9%	4	8	9	6
精神障害	18	15.9%	2	10	2	4
発達障害	20	17.7%	3	10	4	3
高次脳機能障害	7	6.2%	1	4	2	0
難病	11	9.7%	1	3	6	1
その他	0	0.0%	0	0	0	0



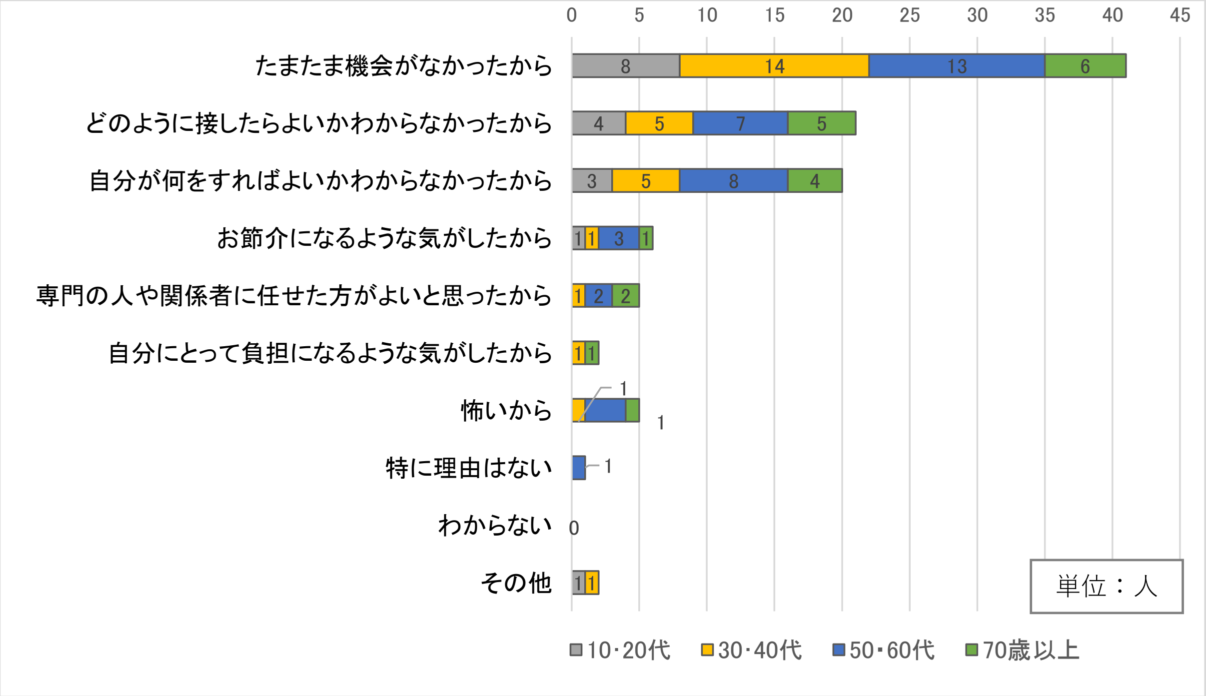
（問5で「②ない」と回答した方）

問８　障害のある人の手助けをしなかったのはどうしてでしょうか。（気持ちに近いものを選んでください。○はいくつでも）

n=53

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
たまたま機会がなかったから	41	77.4%	8	14	13	6
どのように接したらよいかわからなかったから	21	39.6%	4	5	7	5
自分が何をすればよいかわからなかったから	20	37.7%	3	5	8	4
お節介になるような気がしたから	6	11.3%	1	1	3	1
専門の人や関係者に任せた方がよいと思ったから	5	9.4%	0	1	2	2
自分にとって負担になるような気がしたから	2	3.8%	0	1	0	1
怖いから	5	9.4%	0	1	3	1
特に理由はない	1	1.9%	0	0	1	0
わからない	0	0.0%	0	0	0	0
その他	2	3.8%	1	1	0	0

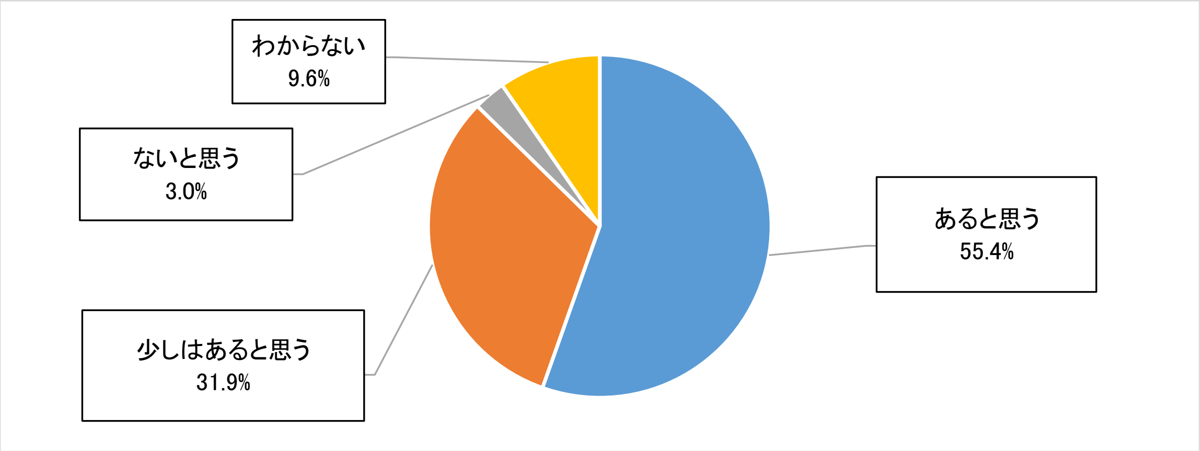
その他・・・
・身体障害と精神障害でも違うと思うので、同一質問として答えるのは難しい。
・「どうしよう」と思っている間に他の人が手助けをしてしまった。



問9　世の中には、障害がある人に対する障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。(〇は1つ)

n=166

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
あると思う	92	55.4%	12	37	32	11
少しはあると思う	53	31.9%	3	17	22	11
ないと思う	5	3.0%	1	1	1	2
わからない	16	9.6%	3	6	4	3
合　計	166	100%	19	61	59	27



(問9で「① あると思う」又は「② 少しはあると思う」と回答した方)

問10　あなたは、具体的にどのような場面で、又は事由により差別や偏見があると感じましたか。ご自由にお書きください。

- 差別や偏見というよりも、無理解や無関心の風潮が強いと思う。
- 小学生時代のクラスメートに身体障がい者が在籍しており「障がい者＝クラスメート」として他のクラスメートが認識したこと。また、他のクラスメートができることができないため、からかいやいじめにつながった。
- 仲間はずれにする。あからさまに同情してかわいそう扱いする。
- 自分達とちょっと違う気がしてしまう故にそこから区別、差別になっていく気がする。
- 自分や身近な人(障害がない)とは違うと思う気持ちや、”普通ではない” と思う気持ちから、悪気は無くても、差別したり、偏見を持ってしまうのではないでしょうか？そもそも、ある程度上の年齢層は、差別や偏見を無くすような教育を十分に受けていない事も、要因になっているのかと思います。
- まわりの方の言動で、「この人は偏見をもっている」と思ってこちらも見てしまっている場合もあるかと思いますが、何も手助けしない方々の多くは、どうしてあげるのが良いのかわからない、という事も多いのかと。一人が先に行動して、ここをお手伝いお願いできますか。みたいに声をかけるのも、方法の一つかと思います。
- 以前に比べ偏見は少なくなっているが多くの人は「どのように接してよいのかわからないのではないかと思う。（例）荻窪駅北口から地下に行くエレベーター前で目の悪い方が後から来られたがどこの位置に居ればよいのかわからない様子であった。多くの人は黙って居られたが一人の老婦人が皆に声をかけ前の方の降りた方に邪魔にならない所に導かれた。他の方達も協力して乗せてあげた。皆、気持ちがあっても一言をかける勇気がなかったのだと思う。
- 犯罪を犯した人が、精神障害者だというニュースがたまにあります。事実なので、ニュースは知りたいですが、そのような情報を聞くと無意識に差別してしまうと思います。
- ネットニュースがパラリンピックや福祉を題材としたテレビ番組を取り上げる度に、コメント欄には障がい者に対する偏見や差別を主張するコメントが散見される。
- 知的障害と思われる方が近くにいた場面でその方を避けるような行動をとる人を見たことがあり、偏見があると感じた。

・私自身もそうですが、電車内で奇声を発している知的障害の方に接すると怖さを感じてしまいます。場合によっては車両を移動することもあります。

・身体的障害に対しては共生の意識が広まっているが精神的障害に関しては関わるのがおそろしいと思ってしまいます。周りの人も遠巻きにして引いてしまっている。

・知的障がいの人を奇異な目で見る。

・障がいをもっている人が流れをとめると嫌な顔をする。

・視覚障害者が駅のエスカレーターで止まって乗降しているときに急いでいる健常者が舌打ちしている。

・電車で発達障害の子が声を発していると、「静かにさせて」と迷惑そうな顔をする人がいる。

・例えば電車の中でも少し行動が変だったり、障害をもっていたりしている人に対して私も含めてほとんどの人が目を逸らして見て見ぬ振りをしている。そうしたところから差別や偏見という目があると思う。そもそも差別や偏見がなかったら、このようなアンケートなんて存在しないのではないのだろうか。

・すれ違うとき極端に離れる。

・個々人の差別意識は良く指摘されるが、より大きな差別・偏見とは様々な生活の場面でのインフラ面の未整備であろう。駅、道路、階段等々。

・医療で診察を断られる。医師が無理解。（耳鼻科で動くためや、声出しなどで待てない）また、知的障害のある我が子が入院する時、身振りや独特の表現で言っているのに看護師や医療者に伝わらず困るため、高齢の親が付き添えなくなったらどうすればよいのか不安です。手話対応のように知的障害者に対するコミュニケーション支援の為、本人の表現に慣れた支援者を病床に派遣するシステムが欲しい。

・SNSでの誹謗中傷

・障害のある人の立場に立った手助けや対応がなされていないと思ったことがある。

・障害があることを理由に、入店拒否など差別されることがあるため。

・いろいろな情報から。最近盲導犬の受け入れ拒否が多い。障害者虐待も多い。

・障害にかかわらず、差別を受けているという人のニュースや記事を目にする。世の中多様な人がいるため、悪意を持って差別している人はあまりいないと思うがゼロではないのではと思う事に加え、悪意はなくても考え方の違いで受け側が差別されている、偏見を持たれてると感じているケースは多いと思う。

・マスコミによる報道

・直接は感じることはないが、メディア等で目にすることは少なからずある。

・SNSへの投稿を見た時に、合理的配慮への理解がほぼない状況を感じた。

・・障害を有する方とのお付き合いに「普段は要しない手間、時間がかかる」との発想が人々の頭にあると感じる。例えば、公共交通機関を利用されている車椅子の方に進んで力を貸す光景は見られない。

・日常生活の中でたくさん触れ合い、関わり合いがないという時点ですでに多様性のある暮らしではないと思うから。身近に本当は障害のある方はたくさんいるのに、そういう方々が見えない（気づかれない）ように暮らさざるを得ない状態になっているのではないかと思います。

・買い物に行った時などお手伝いしてあげればいいなと思うことがありました。見て見ぬふりをしている人がいました。

・補助犬を連れた方がレストランを利用しようとした場面。補助犬マークが一般に理解され認知されればこういうこともなくなるのでは。

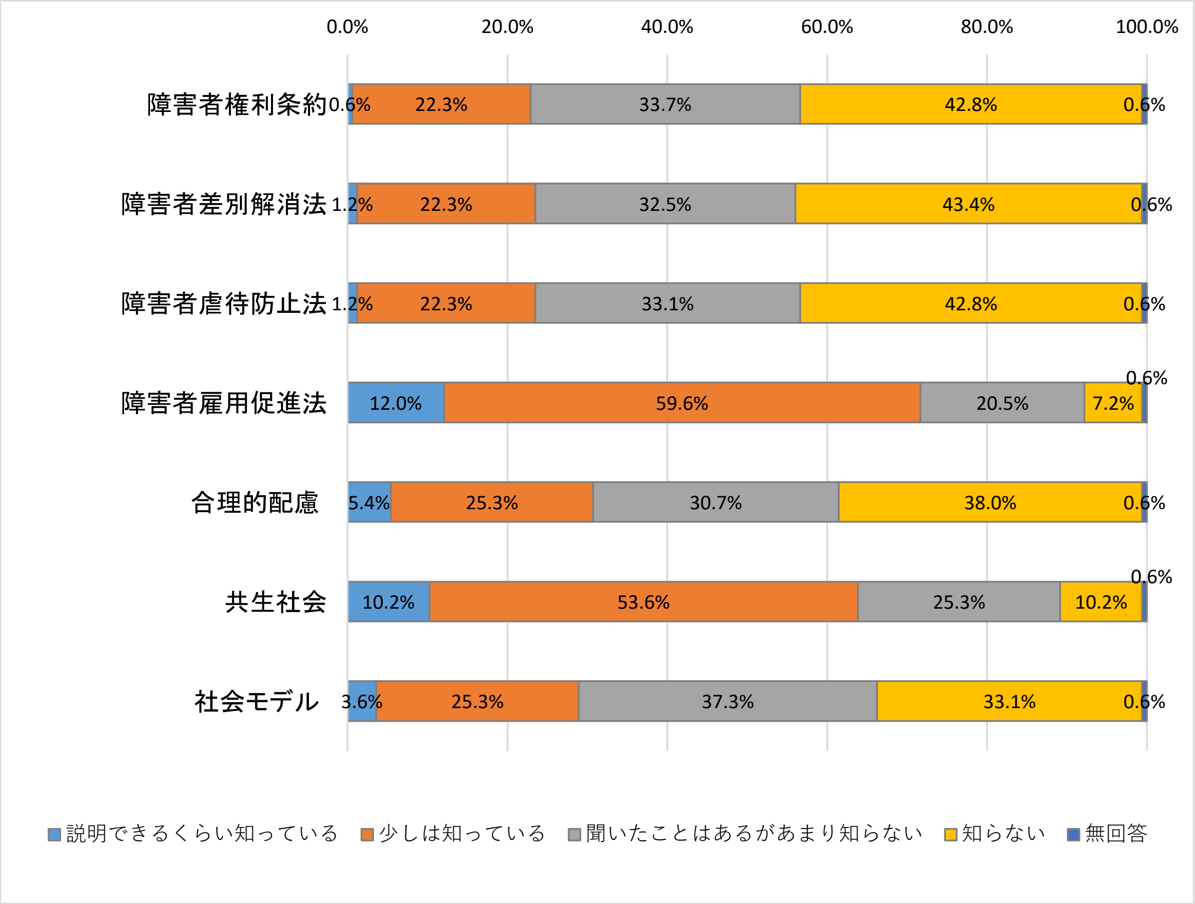
・道路の段差、電車の改札の通りずらさ、自転車を歩道に止めて通れなくなっている等。

◆障害に関する法律・啓発の取組などについて

問11　障害に関する次の法律や用語について、どの程度ご存知でしょうか。それぞれ当てはまるもの1つに〇をつけてください。

n=166

		説明できるくらい知っている	少しは知っている	聞いたことはあるがあまり知らない	知らない	無回答
障害者権利条約 ▸全ての障害者が人権や基本的自由を完全に享有するための措置について定めた国際条約。日本での正式名称は「障害者の権利に関する条約」	件数	1	37	56	71	1
	%	0.6%	22.3%	33.7%	42.8%	0.6%
障害者差別解消法 ▸正式名称は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」。障害者基本法の基本理念に沿って、障害を理由とする差別を解消するための措置などについて定めた法律	件数	2	37	54	72	1
	%	1.2%	22.3%	32.5%	43.4%	0.6%
障害者虐待防止法 ▸正式名称は「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」。家庭・福祉施設・職場等での障害者に対する虐待の防止を目的とする法律	件数	2	37	55	71	1
	%	1.2%	22.3%	33.1%	42.8%	0.6%
障害者雇用促進法 ▸正式名称は「障害者の雇用の促進等に関する法律」。一定規模以上の事業主に対して、障害者雇用率以上の障害者の雇用を義務付けている法律	件数	20	99	34	12	1
	%	12.0%	59.6%	20.5%	7.2%	0.6%
合理的配慮 ▸障害のある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁(社会における制度・慣行・観念等)を取り除くため、状況に応じて、また、負担にならない範囲で行われる配慮	件数	9	42	51	63	1
	%	5.4%	25.3%	30.7%	38.0%	0.6%
共生社会 ▸障害の有無によって分け隔てられることなく、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会	件数	17	89	42	17	1
	%	10.2%	53.6%	25.3%	10.2%	0.6%
社会モデル ▸障害者が味わう社会的不利は社会の問題だとする考え方。障害者とは、社会の障壁によって能力を発揮する機会を奪われた人々と考えるもの	件数	6	42	62	55	1
	%	3.6%	25.3%	37.3%	33.1%	0.6%

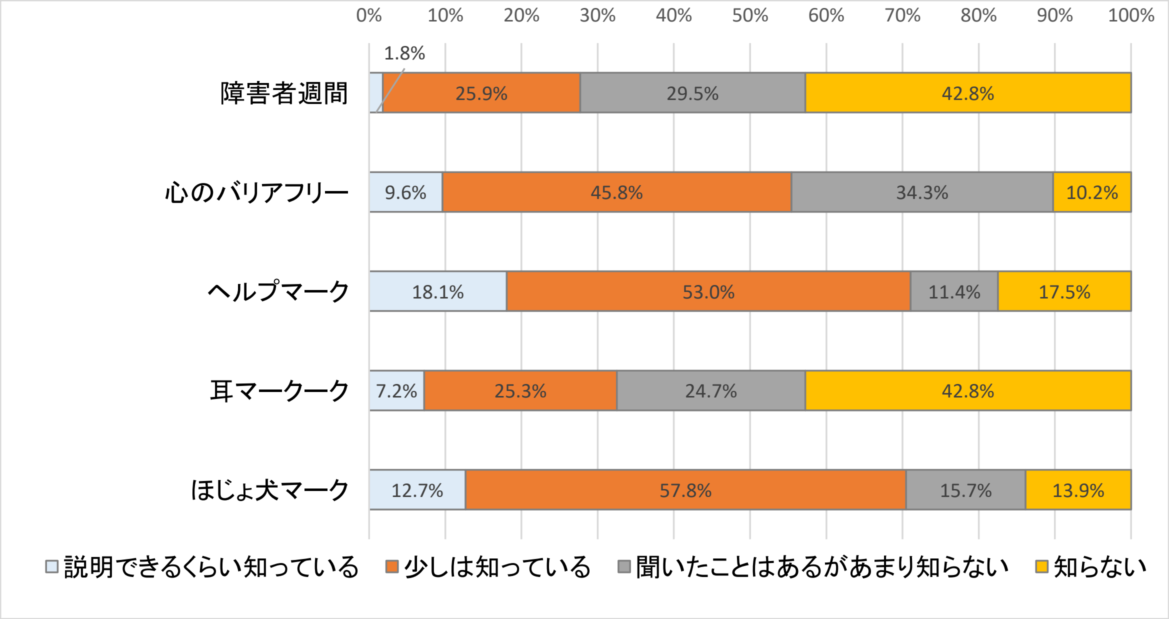


問12　障害理解を深めるための次の普及啓発の取組や障害者のためのマークについてどの程度ご存知でしょうか。それぞれ当てはまるもの1つに〇をつけてください。

n=166

	説明できるくらい知っている	少しは知っている	聞いたことはあるがあまり知らない	知らない
障害者週間 ▸広く障害者の福祉についての関心と理解を深め、障害者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として設定された毎年12月3日から9日までの1週間。この期間に、様々な意識啓発に係る取組が催される。	3	43	49	71
	1.8%	25.9%	29.5%	42.8%
心のバリアフリー ▸障害者等が安心して日常生活や社会生活を送るには、施設整備面だけでなく、差別や偏見などの心のバリアを取り除くことが必要であり、支援を必要とする人への理解を深めることで、自然に皆で支え合うことができる心のこと。	16	76	57	17
	9.6%	45.8%	34.3%	10.2%
ヘルプマーク ▸義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成されたマーク。	30	88	19	29
	18.1%	53.0%	11.4%	17.5%

耳マーク ▸聞こえが不自由なことを表すマーク。聴覚障害は見た目には分かりにくいため、このマークを相手が提示した場合にコミュニケーションの方法への配慮を呼びかけるもの。また、聞こえが不自由な方に対し、「筆談に応じる」などの援助を呼びかけるマーク。	12	42	41	71
	7.2%	25.3%	24.7%	42.8%
ほじょ犬マーク ▸身体障害者補助犬同伴の啓発マーク。盲導犬、介助犬、聴導犬のことをいい、ホテルやレストランなどの民間施設でも身体障害者補助犬が同伴できるようになっている。お店の入口などでこのマークを見かけたり、補助犬を連れている方を見かけた場合に協力を呼びかけるマーク。	21	96	26	23
	12.7%	57.8%	15.7%	13.9%

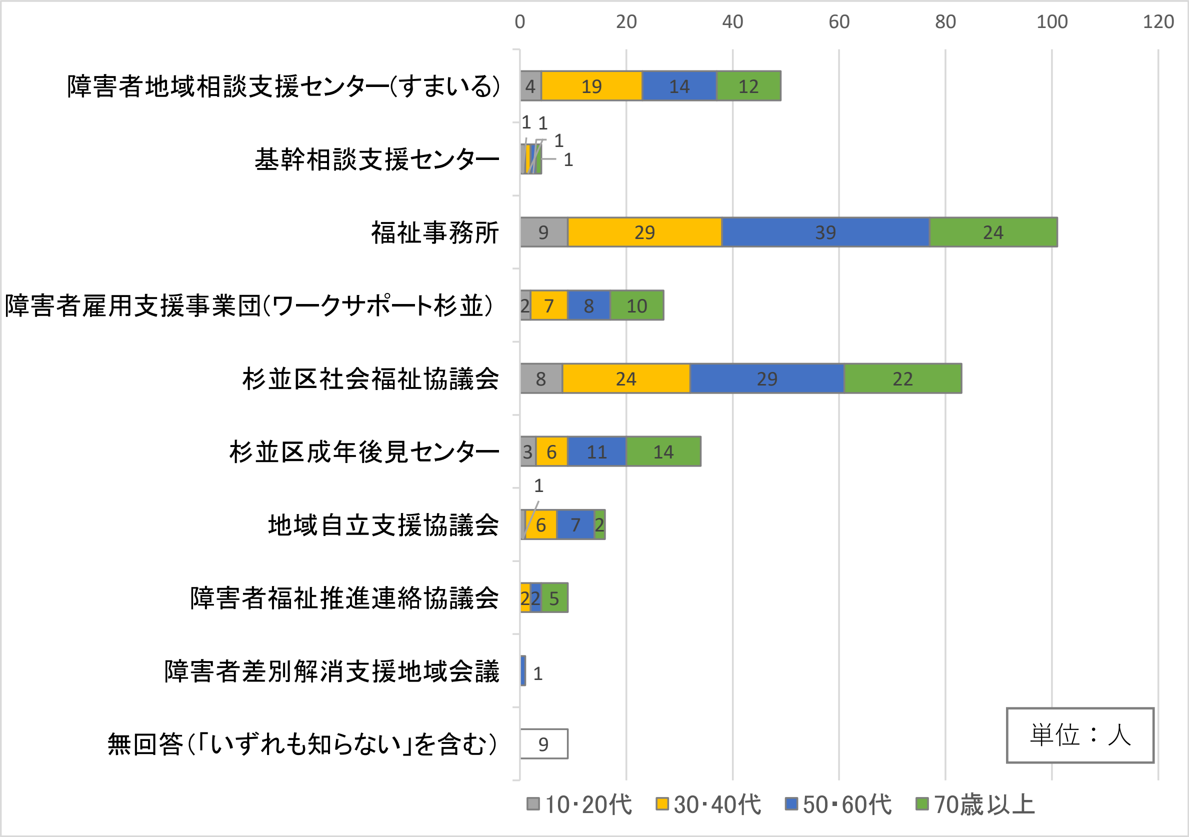


問13　杉並区の障害者への相談・支援する機関などをご存知でしょうか。知っているものすべてに○をつけてください。

n=166

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
障害者地域相談支援センター(すまいる)	49	29.5%	4	19	14	12
基幹相談支援センター	4	2.4%	1	1	1	1
福祉事務所	101	60.8%	9	29	39	24
障害者雇用支援事業団(ワークサポート杉並)	27	16.3%	2	7	8	10
杉並区社会福祉協議会	83	50.0%	8	24	29	22
杉並区成年後見センター	34	20.5%	3	6	11	14
地域自立支援協議会	16	9.6%	1	6	7	2
障害者福祉推進連絡協議会	9	5.4%	0	2	2	5
障害者差別解消支援地域会議	1	0.6%	0	0	1	0

無回答(「いずれも知らない」を含む):9



◆共生社会に向けた取組について

〇杉並区では、障害のある方への合理的配慮の提供を促進することで、障害のある方だけでなく、誰もが住みやすい共生社会の実現を目指しています。

問14　杉並区では、障害のある方への合理的配慮の提供を促進するために、「良かったこと(配慮のある事例)」を継続的に集め、わかりやすく広げていきたいと考えています。あなたがまちの中で体験した(見た)「良かったこと」の事例がありましたら教えてください。(いくつでも)

- 視覚障害の方に交通量が多い横断歩道でさりげなく肩を貸しましょうか？とすんなり声がけをされていて、素敵だと思いました。
- 電車の乗降の時、白い杖をお持ちの方に「何かお手伝いすることありますか？」と声掛けした。気持ちが通じホッとした事を覚えています。
- 白杖を持った方が、青信号なのに立ち止まっていました。それを見た小学生が「青ですよ」と声をかけていました。その小学生が白杖を持った人が目が不自由だと知っていたかは分かりませんが、見知らぬであろう人に声をかけるという無邪気な親切にほっこりさせられました。
- 自分自身では、視覚障害者が横断歩道をわたる際、声を掛け手助けをして一緒に歩いたことが何回もある。
- 点字ブロックから外れてしまったいた方を、近くにいた子供が気付いて優しく誘導してあげていたこと。
- 目が見えない人のために、点字ブロックのうえに自転車を停めないようにしていた。
- サッカーのユニフォームを着た小学生二人が街中で視覚障害者に声をかけ案内をしていた。一人では躊躇することも数人だと行えると思う。
- 車いすやベビーカーが乗りやすいバス(ノンステップバス)がほとんどなのがいいと思います。引越し前の地域はノンステップバスが来る時間が決まっていて、時刻表で確認してたので。
- 最近よく見かける光景になったが、バスの運転手や駅員が車椅子の人の乗降を支援していること。(他11件)
- 通路が狭いスーパーで、視覚障害がある方にスタッフが誘導しながら商品説明しつつ買い物のお手伝いをしていた。
- 何の障害をお持ちかわかりませんでしたがスーパーでその方に店員さんがひとり付いてお買い物を手伝っていました。見ていて心が和みました。
- 体育館で障がいのある方々を対象としたスポーツ活動をしていて参加者も楽しそうに運動していた。
- 足の不自由なお年寄りの手を取って、若い男の子が一緒に横断歩道を渡っていた。
- 駅の階段で荷物を持ってあげる。駅のエスカレーターに乗る時に支えてあげる。ジョギングの伴走。屋内の特に階段などでで目の不自由な方と歩く時に肩につかませてあげて、一緒に歩く。

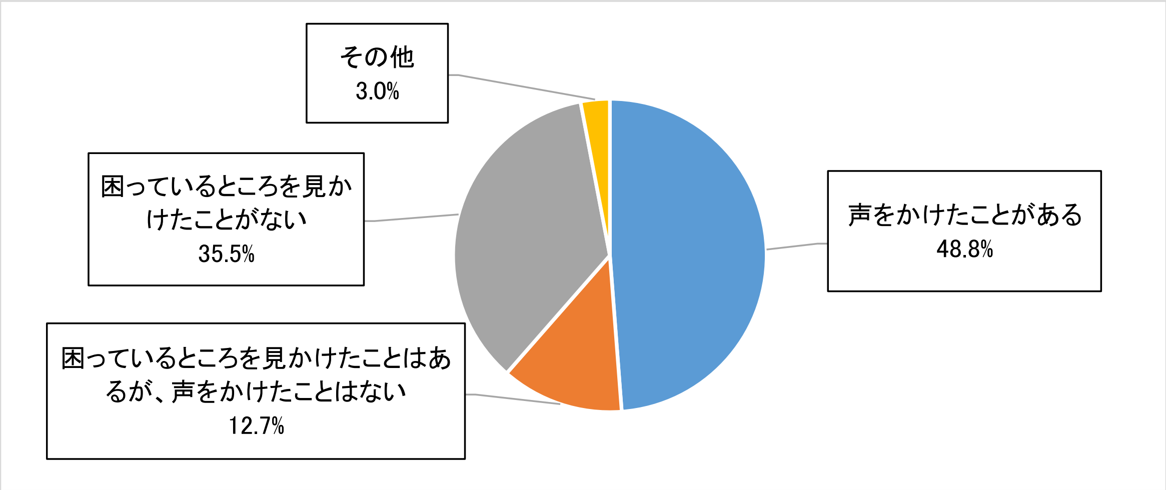
- 電車内でヘルプマークを付けている人に席を譲っている人を見た。
- 郵便局や、図書館で喋ることができない人のために「筆談できます」の表示と筆談用の紙とペンが置いてあったこと。
- 郵便局で、視覚障害のある方（全く見えないのではなく少しは見える方）が郵便局の入り口がわかるように入口の床に白いテープが貼ってある。
- バス車中での出来事で高齢者がペットボトル開けられないので、若者にお願いし、その若者が快く受けていた様子を見てホッとした事がある。
- メモを持たされてお買い物に来た高齢者に店員がお手伝いしてあげてくださいとお願いしたとき（急いでいたので）快くお買い物を探してくださるようでした。
- 碁会所で発達障害の子供に囲碁の指導をしてあげている。
- 西荻の飲食店では、常連の方とお店の方が自然に筆談や手話でコミュニケーションを取っていた。
- 区内クリニック（かかりつけ医）へ、知的障害のある本人を連れて行ったとき、奥の別室で待たせてくださったので、声出しも気にならず落ち着いてのびのび待てました。看護師さんもきちんと本人にも声掛けしてくれ、やさしく上手に採血等してくださった。別な医療機関でもメールで予約できほとんど待たずにみていただけ助かりました。知的障害の息子を連れていつも行くそば屋さんが、本人を覚えていてくれて、水のお替りをするので水のピッチャーごと持参し、取り皿など顔を見るだけでもってきてくれたり、普通に歓迎してくれる気持ちを感じありがたい。
- オンライン配信のセミナーで、手話や字幕の情報保障が付与されていた。
- 新しくできた店舗が、車椅子の人でも利用しやすい、動線が広い作りになっていた。
- 松庵小学校の学区(通学路)には近くに福祉支援施設があり、日常から障害者と接する機会があることで、自然と子供の頃から身近に理解することが出来ていると思う。
- セシオン（ホール）に音楽を聴きに行ったが盲導犬がふせをして最後までじっと飼い主（目の悪い方）の足元に居ておとなしくしているのでお利口なのに驚いた。
- 盲導犬が荻窪駅階段や渋谷駅階段で混雑しているのに一段ずつ人を避けて降りるのには感心した。なかなか人間でもできないことなのに、と思った。
- 青梅街道で男の人が盲導犬に何か言ったらしく静々と連れていくが、通りがかりの犬が吠えても相手にせず、主人を守り普通に歩いていたのには感心した。
- マクドナルドで知的障害と思われる方を調理スタッフとして雇用されています。多分マニュアルを整備して業務を簡素化しているものと思います。
- かつて現役(工場長)のころ、工場に障害者を雇用した経験があります。その際感じたことは、差別することなく差別なく接することが肝要に思いました。

問15　杉並区では、区民一人ひとりが共生社会の実現に向け「行動をする」ことを目指しています。あなたは街で困っている障害のある方に「何かお手伝いしましょうか」などと声をかけたことがありますか。（○は1つ）

n=166

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
声をかけたことがある	81	48.8%	1	33	30	17
困っているところを見かけたことはあるが、声をかけたことはない	21	12.7%	3	7	9	2
困っているところを見かけたことがない	59	35.5%	13	19	19	8
その他	5	3.0%	2	2	1	0
合　計	166	100%	19	61	59	27

その他・・・
・目の不自由な方が銀行のATMの入口の自動ドアの位置が分からず、困っていらっしゃった時。
・阿佐ヶ谷駅のホームで白杖を持ち、困ってそうな方を見かけたので声をかけて、一緒に電車に乗りました。
・自分自身が視覚障害(弱視)で遠目でその人が困っているか判断しかねる。
・駅の階段で戸惑っている視覚障害の方へ
・障害者というより、ベビーカー等で困っていれば明らかなので、声をかけることはあるが、障害については、程度が分からない以上、むやみには声はかけずらい。
・大きな道路の音のならない信号で、赤に変わるのに気がつかずに視覚障害の方が渡り始めていたので、声をかけて歩道まで連れて行った。
・大丈夫ですか？と手を添えるなどはあります。
・障害者ではなく高齢者の方に電車の席を譲ったがそんなに年ではないと断られ、逆に気まずい思いをしたことがある。
・交通機関利用中に視覚障害者に。
・数年前荻窪駅でとある選挙の前にある立候補者が演説をしていた。その時に点字ブロック上に車を止め、ビラ配りをする人や支持者とみられる人が多数いた。そこに、白杖をもった方がいらしたが、誰一人介助もせず、どくこともしなかったので、その方に声をかけ、その危険エリアを回避した。

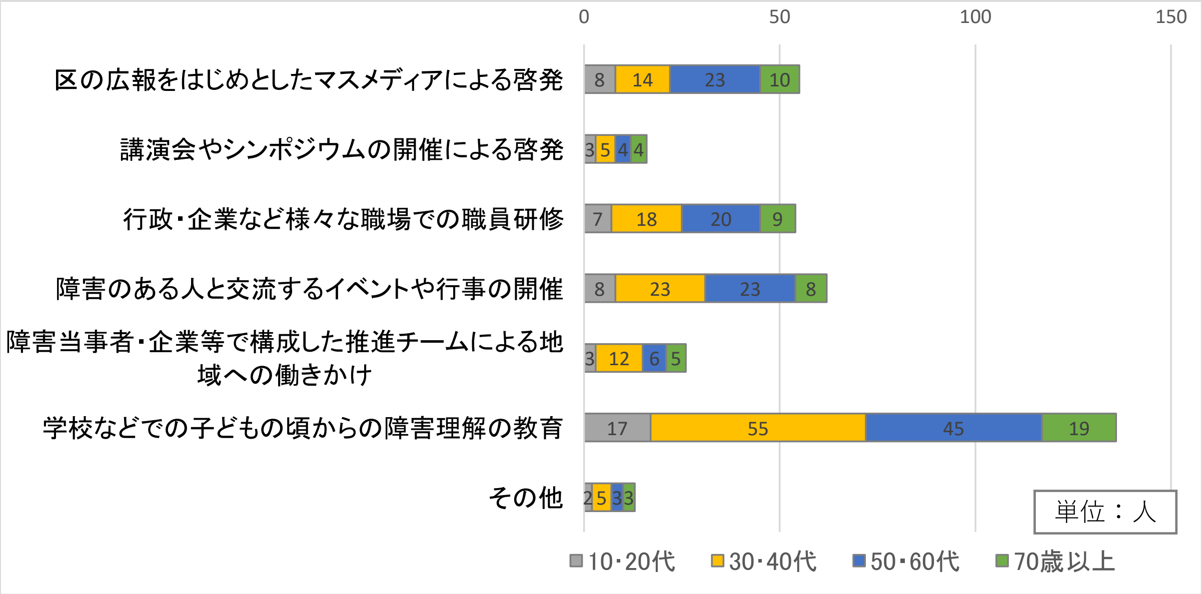


問16　障害の有無にかかわらず、誰もが認め合い支え・支えられながら生きる共生社会には障害理解の普及啓発が大切です。今後、地域ではどのように普及啓発していくことが効果的だと思いますか（〇は2つ）

n=166

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
区の広報をはじめとしたマスメディアによる啓発	55	33.1%	8	14	23	10
講演会やシンポジウムの開催による啓発	16	9.6%	3	5	4	4
行政・企業など様々な職場での職員研修	54	32.5%	7	18	20	9
障害のある人と交流するイベントや行事の開催	62	37.3%	8	23	23	8
障害当事者・企業等で構成した推進チームによる地域への働きかけ	26	15.7%	3	12	6	5
学校などでの子どもの頃からの障害理解の教育	136	81.9%	17	55	45	19
その他	13	7.8%	2	5	3	3

その他・・・
・条例やガイドラインの整備（たとえば店サイズごとの車いす対応基準など）、整備への税制をからめたインセンティブの検討。じじつ困っている人の声をきく調査、そして声を継続的にきける体制つくり。
・例えば電車に優先席が設けられ、ステッカーに優先されるべき人の情報が描かれていると、当たり前に周りの人は足が悪い人、ご老人、妊婦さん等に席を譲る社会ができる。このように、至る所で手助け方法を可視化し、このマークの人にはこのような手助けをすることが当たり前であるという情報を無意識のうちにインプットさせることが、当たり前に手助けできる社会づくりにつながると思う。
・知的障害の寸劇であるキャラバン隊活動を、低学年の児童に見てもらい、知的障害の困り感を理解して貰う。
・障がい者というくくりをなくし、小さいころから普通に一緒に生活すること。
・まちづくり政策の基本に、共生社会の創造を掲げる必要がある。
・まちづくりの基本として、地域区民センター(コミュニティセンター)を基本単位として、地域区民総参加の、共生社会に向けた、政策形成、実施、評価を展開していく必要がある。
・一般市民参加型の障害支援のボランティア活動を積極的に募る。
・障害がある方のインフルエンサーに依頼し、若い世代へのアプローチ。
・現在の社会は世界的に競争社会で、心身を擦り減らす多くの人がいる。そうならないような方策や、そうなる人を救う事が先決で、共生社会とは大きな乖離がある。社会・経済システムから手を付けないと綺麗事で終わってしまいそうな気がする。よちよち歩いている幼児に、転ばないよう自然に手を差し伸べたりする行動の様に出来ないものか？教えることが先走り、感じることがおざなりになっていないか？
・普通学級に障害のある子もあたり前のようにいていいと思います。普段のくらしの中で当事者と接することが何よりの教育で意識が変わるきっかけになると思います。
・私は普及させる前の段階として、下地を作ることが必要と思います。その上で一緒に行動することが必要と思います。私自身、社会の理解が不十分と思っています。その解消のためにもある程度上意者から伝えることも大切と思います。大人には企業側からのアプローチが有効と思います。一方で子供には学校教育の中で取り組むことで、ベースから作られると考えます。それが未来につながると信じたいです。
・困っている人をみたら手助けをすることが大切だと子どもが小さいうちから、親が話すこと。そして親が外で実際に行動を起こし、子供に見せること。
・区が管理する施設で障害者と行動できる団体。



問17　共生社会の実現に向けてご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

- 共生社会の実現に向けて区が推進されている取組の効果が一人でも多くの区民に届くことを願っています。
このモニターアンケートにおいて「障害」という字を使っているのが気になりましたが、きっと意味があっての事だと思います。
- 理解し合うことから始めることが必要。触れ合う機会の提供。
障害、という言葉は、害があるイメージなので、表現は、障がい、と記載したほうがいい。
- 困っている人がいたら放ってはおけない気持ち、沸き起こる正義感というようなものは、その人が育ってきた家庭環境ではぐくまれるものだと思う。でも現代は皆が個人主義になってしまい、自分さえよければ良い、困っている人がいても無関心という人が増えてきてしまっていると思う。家庭教育には期待できないので、せめて学校教育の場で啓発出来たらよいと思う。
- 物心つく前から障害理解の教育を推進していくしかないが、ありとあらゆる場面で声を上げるシステムづくりを諦めずに継続していくことが重要です。
- 「障害のある人に優しくしよう！」ではなく、「障害のある人もない人もいるのが当たり前」という感覚を子供の頃から養えるといいと感じています。絵本や、学校でのお話、親の語り掛けなど、できることがあると思います。

- 子供の頃から垣根無く当たり前のように接する教育が大切だと思います。明日から急には難しいと思いますが、小さい頃から障害に対して壁を作らないことで特別なことでは無いと心から思ってほしいです。
- 大人の意識改革も大事ですが、なんといっても教育です。頭の固くなる前に社会には様々な人がいて同情ではなくその個性に対等につき合っていく事を教育現場で教えてあげて下さい。
- 教育が大事です。義務教育だけでなく、杉並区にある学校は公立、私立、高校、大学を問わず、障害に関する教育カリキュラムを組み込むようにしてはどうでしょうか。また、学校から親向けの参考資料を配布して頂いたり、大人向け教育の場も設けたりする→実施するなら、徹底して実施するのが、理解度を上げる近道だと思います。こう言う事は、なんとなく啓蒙的な感じで進めても、結局は身に付かず、いつまで経っても、状況が変わらないのでは、と思います。
- 障害者、高齢者ともに、困っていたらみんなが声をかける世界になってほしい。
  そのために、小さい頃から教育して、例えば目が見えないことはどういうことなのかなど、目隠しをして歩くとか、体験してみるのいいと思う。
- 桃井第二小学校では、ひまわり組があり、なんとなくいっしょに隣のクラスとかで6年間を過ごしていました。
  支援学校として通うことも大事ですし、それが必要なこともわかるのですが、そこだけで独立するのでなく、すこし一緒の空間ですごす時間が、小学校・中学校のあいだはあるほうが「なんか違うけど、でもいっしょにいたし」と共生できる人間が育つように思えます。
- 私は小学校の時に、障害のある子がクラスに2人いました。1人は頻繁に突然発作が起きて倒れてしまう子。もう1人は、精神的疾患で自宅以外の場所で言葉を発することが難しい子でした。小さい時からクラスにその子たちがいたことで、困っている子がいたら助けるということが特別なことではなく、ただ単に当たり前なこととして成長することができました。クラスの活動でも、その2人が出来ない時にはどう補助してあげたら良いか、また発作が起きる子については、先生達がいない場所で発作が起きた際に、先生を呼びに行くだけでなく、少しでも早く対処して大事に至らないようにと考えて、発作が起きた際に軌道を確保する体勢をその子のお母さんから学び、発作が起きた際は周りに大人がいなくても近くにいる子供たちで体を補助し、他の子供で急いで先生を呼びに行くことを経験しました。
  小さい頃から身近にその子たちがいたことで、大人になった今でも、困った人がいたら躊躇せずに声をかけ、相手の方が必要であれば助けることができる意識を持てているのだと思います。
  多様性を認める時代だからこそ、色んな人がいて、皆で助け合って生活していくことの大事さが小さい時から当たり前になっていったら、一人一人の意識が変わると思います。
- 娘が小学生だっとき、人権教育の一環として藤井輝明さんとの触れ合う機会がありました。一緒に給食も食べること、アザに触れる事、低学年ででき事によって、その後の成長、他を受け入れる事、大きな影響があった様に感じました。こういった教育はどんどんするべきだと思います。
- 今回のアンケートを見て改めて自分の無知さを知りました。私の年代は障害を持つ方とは違うクラス、学校で学んでおり、日常生活で触れ合ったことがなく、そのような方が近くにいても気づかず、気づいてもなにをすれば良いかわからないのだと思います。前の設問の回答のとおり幼少期から自然に接していれば、どう手助けすれば良いか当たり前に考えられるのではないかと思います。年齢的には私はもう無理ですが、リタイア後の生活を前に機会があれば実際に経験したいと思いました。
- 教育や家庭の中で、障害の有無に関わらず多様な人、価値観と交わり、互いに支えあったり助けられたりするのだという経験や体験を自然とできたら素晴らしいと思います。杉並はわかりませんが、私が通った小中は公立のため特別支援のクラスも同じ学校にあり、社会の一員として皆が存在するという意識を得ることが出来たと思います。障害を持つ方も、同じ境遇の方と接した方が気持ちが楽という意見も聞いたことがありますが、なにか見えない心のバリアがお互いの間に横たわっている気もします。助ける、助けられるではなく当たり前のこととなる社会になるように、身近に出来る事から始めたいです。
- 現在暮らしている地域社会に関われる層は限られており（会社勤めの人はなかなか地域に目を向けた活動に参加しづらい、余裕や時間が取れないなど）、子どもの頃から、障害があってもなくても、誰もがみんな暮らしやすい環境でなくてはならず、障害を特別なものと意識しない教育が必要ではないか。
  また、障害者も自立することを目的に活動・活躍できる場を増やす助けを行政は率先して提供すべきであり、障害者が健常者の理解や感動を得るための手段と目的に利用されてはならず、健常者自らが共生社会とは何かを理解する機会を設ける必要性を感じる。
- 障害に限らないが、私は人が他者を差別しようとする行為は理知性の低さによる傾向が強いものと思っています。他者を尊重し個々の違いを許容する文化のない日本においては、教育による底上げに勝る対策はないと考えます。例えば指定教育受講者に対する区民税の減免やポイント付与など、裾野を広げるために利に訴える施策があっても良いのではないかと思います。
- 共生社会というのは難しいとは思うが、もう少し教育現場での障害者の理解を深めていく必要があると思う。障害者と一口に言っても、体や行動に表れている人や発達障害といった一目見ただけではわからないような障害など様々な形で障害は溢れている。もしかしたら自分が健常者と思っていても障害者かもしれない。そうした障害への理解のためにも特に小中学生のうちに障害というのは何なのかや支援教育というのは何なのかといった教育が必要だと思う。そうすることで差別や偏見が少なくなってくると思う。
- 人は一人では生きていけないから、助け合う事の大切さを感じます。（困っているときは、遠慮なく声を上げて助けてもらう、困っている人がいたら手を貸す）
  ジェンダー問題も同じだと思いますが、健常者が「普通」という固定概念をなくす感覚の教育も必要だと思います。

・ 普通に声かけ合う、温み合う、支え合う、感謝し合う、社会になれば、と思う。
或る日、車椅子の方から、お早うと自然に挨拶され思わず嬉しくお早うございますと交わしました。
障害のある方、ない方、さりげなく自然に挨拶し合う国になればいいですね。
地域から、幼稚園、小学校の教育課程から。

・ 共生ということですが、隣は何をする人ぞ。ではないですが、隣人や住んでいる地域の方々とまず挨拶からスタートし顔見知りになることから。大きな手助けばかりではなく、自宅前の掃き掃除から隣近所までついでに掃く等、縁があっての関係だと思うので、お互い様という思いで長期間かかると思いますが信頼を深めているのが大事かと。

・ 障害の有無だけでなく、「人はみな違って当たり前だし、そういった違うことが当たり前の人達がみな安心して暮らしていける社会になったらいい」という発想が育つような社会づくりが出来たら素晴らしいと思う。

・ 共生社会の実現には、誰もがちょっとずつ我慢することが求められると思います。その我慢が負担にならないよう、障害理解は日常的に学校や職場などで行われるといいと感じました。

・ 障害のある人の家族の負担が（精神的にも）軽くなればいいと思います。

・ 親は障害のある子供の面倒をいつまでもみられないので、彼らの自立支援：行政＋民間（＋公共財団）が必要。
収入＋生きがいの確保。　例：公益財団法人ヤマト福祉財団。

・ 若い頃、片足に障害がある男の人が荷物をたくさん持って大変そうだったので、「お持ちしましょうか？」とお聞きしたところ「泥棒!」と叫ばれたことがあります。「何かお手伝いできることはありますか？」と聞けば泥棒とは叫ばれなかっただろうし、言葉選びが悪かったかなと思いました。面識のない方に気負わずに、「お手伝いできますか？」「お手伝いお願いできますか？」を言えるようになるには、教育や研修等、何かしないと難しいのかなと思います。

・ 理解を広める啓蒙普及に効果がないとは言わないが、しかし、来るのはもとより興味ある人だろうし、なにか対策をやった感にとどまるのではないか。関係ない人を動かすためのインセンティブの整備、その基準としての条例ないしガイドラインの整備、そしてその内容に反映すべく当事者・支援者に具体的にどういうところが困っているのかの声をきくシステムの整備といったところに資源を使ってほしい。

・ 既に、障害者センター等には様々な声が集約されていると思うが、それらを第三者機関を設けて分析し、「公助課題は何か」「共助課題は何か」を明らかにして広報すると良い。現実の声が説得力を持つと考えます。

・ 多くの人の潜在意識の中に差別や偏見はあると考えます。この人はこの障害があるから、どうせこれはできないだろうなどと考え勝手に線引きをしているのではないでしょうか。つまり勝手に限界を健常者が決めてしまっているように思います。私もその一人かもしれません。障害者本人またその家族の生の声を聞くことが出来る機会が多くあれば何を障害者が必要としていて、どのように対応して欲しいのかが理解しやすくなるように思います。

・ 老母を車椅子に載せて移動すると、道路舗装や段差が気になるが、普段はあまり気にならない。
人夫々とは言うものの、多くのどの様な障害を持っている人が、どの様な場面で困り、どの様な場面で逆に助けが不要かを、分かり易く伝えて貰うと健常者の理解が進むと思う。
健常者の想像力だけに期待するのは限界がある。自分が障害者になって初めて分かるのではなく、幼稚園や小学校、中学校辺りでで教育して欲しいと感じました。

・ 杉並区は道路が狭く、歩道は自転車の不法駐輪などが多く、また自転車が横を凄いスピードで通り抜けゆくことがあり障害者には歩きずらいです。障害者に優しい町ではないと思います。
道路の段差をなくしたり、不法駐輪の取り締まり、歩道の自転車の通行禁止等積極的に行っていただきたいと思います。

・ 今回、障害者に関するテーマでしたが、杉並区の施設は駐車場のない所が多いです。以前の職場の同僚は事故により身体障害があり、どこに行くにも車で移動していました。杉並区は年金事務所でも駐車場がない所が多く、駅から離れた場所でタクシー乗り場まで離れた所も多いです。大きな公園でも駐車場がない所がほとんどです。障害者であれば障害年金を申請するでしょうし、広い公園でリフレッシュしたいと感じるのでは、と思います。体が不自由な人への対策をするならば、何故その様な所から対策していかないのか疑問です。

・ 障害のある方たちと区民が自然に集え憩える場として、アートカフェができるといいと思います。知的障害のある方の描くアートは明るい色合いで個性があります。

・ 障がいを持っている人やそれを支援する団体に情報発信をする予算や機会を与えてほしい。例えば、先日、新聞で視覚障がいをもっている人が助けがほしいときに、白杖を上に向けるということを知った。こういうことをもっと知りたい。なぜなら、その人にも助けてもらいたいときと自力でできるときがあると思うからだ。障がいをもった人だって、健常者を助けることはできると思う。こういうことを発端に障がいをもった人と互助できればよい。義務教育でも、先ほどの白杖を上に向けるサインの類いは教えるべきではないか。障がいをもっている人とのふれあいの機会もいいが、実際にどうすればお互いに役に立てるかを知りたいし、子どもたちにも知ってほしい。

・ 大阪の大空小学校のドキュメンタリー映画「みんなの学校」はとても考えさせられる作品です。ぜひ、区が主導で区内での上映会を積極的に企画してください。知的障害のある子も発達障害のある子もだれ一人とり残さない、という普通の公立小学校の実録ですが、多様性を認め合える社会のあり方を考えさせてくれるすごくいい映画です。自分の子どももこういう環境でいろんな子と触れ合って学んでほしいと思いました。大空小学校の初代校長の木村先生の講演会なども映画の上映会と合わせてぜひ企画してほしいです。
  2．精神疾患のある方が運営している古本屋さんの買い取りサービスをたまに利用しています。この店を利用することで、少しでも障害のある方々の就労や自立支援に役立てるならいいなと思っています。ただ、たまたま知る機会がありましたが、自分が知らないだけで他にもこういう店やサービスはきっとたくさんあるのではないか。知れば利用者は増えると思うので、区がどんどん情報を発信してくれたらいいなと思います。

・ まず理解と行動に繋げるために、幼少時からの継続的な教育が非常に重要だと思います。また共生社会を実現するためには、まずは就労の斡旋や生活の支援など、基本的な生活をおくるための負担を軽減する事が必要だと思います。身体機能的なハンデをもつ方の負担軽減も重要であるため、スロープの設置や音響ガイドなどのハード面での支援もあると良いと思いますが、箱物の改善などでに安易に満足せず、抜本的な解決のためには、やはりソフト面を継続するところから始まると思います。

・ 5年以上アメリカに滞在していました。困っている人は助けを求めるし、困っている人を見たら若い人たちでもさっと手助けする文化があります。日本に戻ってから日本人は困っている人を見ても目をそむける。見なかったことにする。多くの人がそうです。声も出さず。もめ事になることを避けているのでしょう。障害者への理解は子供が小さいうちから親が話していくこと。親へは講演会やシンポジウムに参加して理解を深めることをしていくのがいいのかと思います。

・ 障害の有る方は何が困っているのか、どの様にしたら手助けになるのかを分かり易く広く知ってもらう啓蒙活動を多くの方が目にする形で行う事が必要だと思います。既にいろいろな形で啓蒙活動をされていると思いますが、一般の方々が目にする機会が少ないのではないかと感じます。

・ このアンケートに回答した日、たまたまJR荻窪駅で盲導犬を連れた目の不自由な方を見かけた。「盲導犬」がいるから声をかけたほうがいいのか、声をかけると逆に失礼なのか悩みました。結果、声をかけましたが「大丈夫です」とのことで、介助は不要でした。

・ 障害をお持ちの方の声（どういったときに、どういったヘルプが必要か）や介助者のリアルな声（困った体験やこうしたら喜ばれたなど）をリーフレットやHP、SNS等で周知すると、それをベースに街中で困っている方を見かけたら実践できると思う。

・ クルマを運転中に、迷子のおばあさんと遭遇。住所は言えるので、おばあさんとカートをクルマに乗せて近くの交番へ。訳を話すと、こちらの事情も聞かずに警官の一人が「住所がわかるのなら乗せてってあげれば？」と、ひと言。思わぬ所でで、共生社会の実現に向けて研修指導されてしまいました。

・ 車椅子を使用する方が外出するなど、障害者にとってはかなり社会的な意識、物理的条件は改善されてきていると感じるが、例えば鉄道駅プラットフォームのホームドア設置なども未だ設置は途上にあり、完全な改善が求められる。又、交通機関従業者も障害者に対して積極的に声掛けをする・手助けをするなど意識改善が求められると感じています。

・ 障害のある人にも最初の一言を勇気を持って話し掛けてあげればそのあとは話の流れで色々の事を知る事ができる。例えばコンサートに行きたいのに行かれない場合には一緒に行ってあげたり、ピアノの得意な人でミニコンサートを開きたいのを聞いて場所や練習所を探してあげたりしてささやかなコンサートを開くことができた経験もある。皆友好的に協力して下さった。多くの人は障害のある方に対し友好的であるが、ただ行動に仕方がわからないだけのような気がする。

・ 私は、共生にはお互い様という気持ちが大切と思います。それはサポートする側もされる側も。最近残念に思うことは、駅で車いすの乗降を駅員さんにサポートして頂いた時に、ずっとスマホを見ていて「有難う」と言わないサポートされる側の人が多い事です。（すべての人ではありません。笑顔で挨拶している人もいます。）サポートされた方もひと声あると良いのにな、と思います。

・ 多くの人が手伝いたいと思っていると感じています。でも、どのタイミングで声を掛けて良いかわかりません。ヘルプカードのようなものがあると声がかけやすくなると思います。何をして欲しいかを明確にすることで共生のハードルが下がると感じています。

・ 精神障害を持つ家族がおりますが、家族でも付き合い方が難しいと感じております。学校や職場など、生活の中で誰でも理解を深められる環境が必要なのでは、と感じます。

・ 視覚障害者や杖を持った高齢者は目で見えるので声をかける判別ができます。しかし、聴力や声が出ない障害者に対しては判別ができずに声をかける機会が見つかりません。知的障害はどうしていいか分からず、様子を見ているだけで行動に移れません。

・ ヘルプマークなど、認知度が低いと感じます。もっと啓蒙が必要だと思います。

・ 今年は東京パラリンピックがあったので、テレビを通してですが、障害がある方たちの様子を目にすることが多かったように感じます。見たり聞いたり自分の身近に感じることができると、障害がある人と無い人の垣根がなくなっていくと思います。

・ 今回のアンケートの主旨は障がい者ですが「共生社会の実現」でふと、子どもが自力で歩けない時代の大変さを思い出しました。（出産後、重い荷物を持ちつつ抱っこ紐で子どもを抱っこしたりベビーカーを押しながらの移動は、とても大変で外出の大きなハードルになっていました。出産するまで子連れの外出が困難であることを知りませんでした。）

・ 現代人は忙しさから心の余裕のなさから周りに目を向けづらく、相手の気持ち・立場になって物事を考えるのが難しいとは思いますが、「共生社会の実現」には必要不可欠だと思います。大人も子どもも、「相手を思いやる」ことが、共生社会の第1歩だと思います。

・ 杉並区政は、先進的都市自治体として、共生社会実現に向けた様々な施策を打ち出し、公共領域での区民総参加の共生社会形成に向けて、区民をリードしていってほしい。…地域包括支援、地域保健、地域福祉、アウトリーチ、地域医療、危機管理、地域の協働運営…補完性の原理の下で、この領域で杉並区政に求められているところは、極めて大きいと考えます。

・ 障害者になりたくてなった人はそうそういないし、突然健常者から障害者になることだってある。障害があってもなくても人間性は様々で、得意不得意も各々である。障害の程度は人それぞれで、良い意味でも悪い意味でも健常者に溶け込んでいることもある。障害をオープンにしたい人もいればあえてクローズにする人もいる。障害の有無で一括りにせず、人間性を尊重して学びの場や職場で、皆が必要以上にストレスを感じない世の中になっていってほしい。

・ 障害のある人、ない人、と区別することなく、一人ひとりがそれぞれの特性を受け入れることができ、自然とかかわりあえる社会になったら良いと思います。

・ 私は85才になる老人ですが、老人も足腰が痛く、目もしょぼしょぼ、耳は聞こえなくなり、障害者ではないですか。障害者との共生に限定されるだけでなく、もっと老人から若い人まで、皆が住みよい共生社会が望ましいことだと思います。その心の中に障害者を受け入れる社会を築くことは幸せな社会ではないでしょうか。制度や組織はあくまでも補助です。小さな子供達からの教育がすべての解決の基礎になると思います。杉並区が誰もが住んでみたいと憧れられる行政区にしてほしいと思います。老人を大切にする地域であって欲しい。残念ながら、現在は、その様になってはいません。

・ 自分が意識していないだけで、もしかしたら、自分も障害を抱えているかもしれない。「障害」という概念は人によっても違うし、重度の障害を持った方でも、「障がい者」という意識を持っていない人もいる。その人の特徴ととらえ、なんか手伝えることがあるなら、手伝うよ！ぐらいの楽な気持ちでみんなが接することができたら、偏見も差別もなくなると思う。きれいごとかもしれないが、そういう気持ちがあれば、共生社会って実現しやすいと思います。

・ 障害者は助けられる側で健常者は助ける側という意識がある間は共生社会が実現できているといえないと思っています。社会の一員として自分にできることをするし、できないところを助け合うのは障害のあるなしには関係ないことですので、障害のある方にも助けてもらうという意識ではなくて、こうしてもらえば力を発揮できるという視点で、どんどん意見や要求を出してもらえたら良いと思います。たとえば目の見える人には視覚障害の方がどのように世界を感知しているのかがわからないように、その障害のない人には何をどうしたらよいのかわからないことが多いですから、まずはそれを具体的に知る機会が多くあればよいと思います。
また、子供の頃から障害のある友達と接することも大切だと思います。幼稚園、保育園、学校でも受け入れられる体制作りが急がれると思います。

・ 健常者にとって当たり前の社会システムは、視覚聴覚を含む身体的な障害を持つ方々には不自由を感じることが多いと思います。行政はその不自由を出来るだけ少なく、垣根を低く、できれば取り除くことを目標に努力するため、適切に予算化することを希望します。

・ 障害者を身内に持つ住民が自力で介護するだけではなく、そのためのサービスを利用するのが当たり前になるよう、サービス活用で孤立を防ぎ、社会との繋がりを保ち続けられるよう、障害者を支援する行政のチャンネルと地域拠点を増やしてください。

・ 住民福祉に逆行する予算措置を見直し、障害者差別の解消と共生社会を杉並区が実現するための予算枠を、的確に手当てしてください。

・ わが杉並区の現状は、大多数の区民は、生活保守主義に走り、「共生」への目配りが弱体化していると思う。

・ 不便や不都合が生じることもあることを理解しており、その上で、障害だけではなく、性別、年齢や国籍等といった多様性に配慮できる社会になることを望みます。

・ 小さい頃から偏見を無くす為の教育が必要だと思います。

・ 障害者の定義が近年多様化しているので、改めて教育の場で考える必要があるとおもう。

・ 障害を有した方との共生が「あたり前」であるために、普段から接している、交流していることが大切。特別でないことだと皆が理解できるように各種のイベント、行事があると良い。

・ 障害があるとか無いとかあまり関係なく交流することで、身近に感じて距離がすごく縮まると考えています。
会って話をしたり、一緒に行動する機会が重要だと思います。

・ 障害に対する知識や理解が共生社会の実施に向けて必要と考えます。

・ 障害のある人との交流する機会づくり。

・ 障害者の気持ちを理解するためには、障碍者からの発信も必要では。

・ 街のバリアフリー化の一層の推進

・ 障害者がもっと気楽に必要な手助けをお願いしたらどうでしょうか。

・ 当事者の声が聞ける機会（講演会など）があるとよいなと思います。障害の種類によっては難しいことだとは思いますが。

・ マスクをしながらで難しいことも増えてきました。

・ 何か困っている人を見たら、一声かけてお手伝いをする。

・ 障害者が何に困っているか、どの様な時にどうして欲しいと思っているか分からない。障害者の考えていることを広く世間に知らしめることが大切と思う。

- 小学校等で、特別学級があると、子供の頃から自然に身近な存在になると思う。私も特別視するつもりは全くないが、どうしたらいいか分からないのが現実。
- 知識ベースの研修は効果が低いと思われる。様々な障害者に対するケアの活動を実体験する場を設ける。自分自身の経験の中でも視覚障害者である友人をケアする方法は彼から学んだ。
- 偏見の多いことだと思うので、理解を深めるべく、区のイベント等に積極的に障害のある方達にも参加して頂き、健常者と共にクリアしていく様なものを企画してみる。
- 実際に身の回りにそのような方がいると気がついてくいるのだと思いますが、なかなかできないと思います。やはり障害のある人との交流など身近に感じる体験が必要だと思っています。
- どんな障害があるのか、身近に障害の方がいたり、接したことがないと解らないことが多いと思うので、経験が大切かなと思います。
- わざわざ行うのではなく、普通の行事の中に配慮の仕方をさりげなく入れて啓発したほうが良いと思う。
- これまで意識していないテーマだったので、アンケートを受けただけでも、良かった。知らないことが多いな、と感じました。ぜひ、いろいろな啓蒙をして欲しいです。
- 各自が問題意識をもって行動すること。
- それぞれの障害に対して、どのような対応が求められるのか、知らなくても対応できるのかなど、基本的なことの知識もないので、仮に見掛けたとしても、手を伸ばさないと感じています。
- 自分の身の回りで体験しないため、ほとんどわからないことばかりです。家族や近隣の人々との会話でも聞いたことがありません。このような区民は多いのではないかと思います。取りも直さず、国の取り組みが不足していると思われます。また、区や都の啓発が不足しているのだと思います。
- 今回のアンケートを通して、改めて意識しようと思いました。アンテナをはっていきたいです。
- 自身がその立場であったらと障害を持つ方の立場にたって考えて対応する事が必要だと思います。
- 共存社会の第一歩は、普段の生活の中で「お手伝いすることはありますか」と普通に言えることだと思いますが、じっさいなかなか難しい。これは子供のころからの教育が一番重要ではないかと思う。何もしていない自分が言うのはおこがましいが・・・。
- やはり啓蒙活動が足りないように感じる。
- 障害のある方の意見を反映させた活動が増えれば、より良くなるのではないでしょうか。
- やはり小さいことから知識を得ること、触れ合うことが必要ではないかと思う。知らないからこその恐怖が偏見へとつながると考える。
  問3-8について、難病だけだと広すぎて対応が違いすぎるため答えが難しいと思う。
- 障害者の方々のイベントに機会あれば参加したい。
- 家庭、職場、学校で共生について考え、話し合う機会を設けるように取り組む。

令和３年度第３回
杉並区区政モニターアンケート
集計結果報告書

登録印刷物番号
03-0024(3)

令和４年１月発行

編集・発行
杉並区総務部区政相談課
〒166-8570
杉並区阿佐谷南1-15-1

☆杉並区のホームページでご覧になれます。
https://www.city.suginami.tokyo.jp/kusei/koho/kocho/1012817.html

再生紙を使用しています